

みやぎ生協・コープふくしま

サステナビリティ レポート2020



COOP
MIYAGI
みやぎ生協



みやぎ生協・コープふくしまのめざすもの

わたしたちは、協同の力で、人間らしい暮らしを創造し、
平和で持続可能な社会を実現します



「みやぎ生協・コープふくしま サステナビリティ・レポート」 発行にあたって

みやぎ生協は1982年の創立以来、地域住民のコミュニティの中核として宮城県内における多数派組織の形成を目指してきました。2019年3月には福島県の2生協と組織合同し、みやぎ生協・コープふくしまとして新たなステージに踏み出しました。

「協同」とは「競争」（＝弱肉強食）に対置される理念です。人間と人間が互いにその人間性を尊重し合い、心を合わせて助け合って活動することを意味します。地域コミュニティの希薄化や、社会から取り残される人たちに対して「誰も置き去りにしない」地域社会づくりの担い手として、役割を発揮することが協同組合に求められています。

今、私たちは時代の大きな転換点に直面しており、地球的規模で関心が高まる気候変動などの大きな課題を前にして、社会全体でその解決に取り組まなければなりません。2015年に国連で採択された持続可能な開発目標「SDGs：Sustainable Development Goals」が示す2030年までに解決すべき課題に対し、どのように取り組み貢献すべきかがそれぞれに問われています。

このサステナビリティ・レポートは、みやぎ生協・コープふくしまの事業・活動とSDGsの17のゴールの関係を、メンバー（組合員）、お取引先様、自治体、関係団体などの皆様にわかりやすく伝えるためにまとめたものです。

東日本大震災以来取り組んできた被災者支援はもちろん、この間積極的に取り組んできた再生可能エネルギーによる発電事業をはじめとした環境活動、顔とくらしの見える産直「めぐみ野」、生活相談・貸付事業、コープフードバンクなど様々な事業・活動を掲載しています。是非、ご一読いただければ幸いです。

みやぎ生活協同組合
専務理事

大越 健治



Contents 目次

1 みんなでつくる豊かなくらし

食品の安全安心	5
生産者と消費者をつなぐ	7
東北の食と産業を伝える	11
地域コミュニティと学びの場の提供	13

2 安心してくらせる地域づくり

買い物にも安心を	17
多様な買い物のかたち	18
社会福祉の向上	19
セーフティネットとしての役割	20
自治体・民間団体との連携	21
防災・災害支援	23

3 公正で人にやさしい組織づくりのために

働きやすさと多様性	25
誇りと展望を持てる風土づくり	26

4 地球とエネルギーの未来のために

環境理念、環境方針、環境管理体制	
2030年目標「CO ₂ 排出量 65%削減」	27
再生可能エネルギーの普及拡大	28
循環型社会の構築～3R～	29
メンバー（組合員）と進める環境活動	31

5 平和な社会の実現を目指して

平和な国際社会に向けて	33
-------------	----

6 ガバナンスと概況

経営体制と意思決定	35
みやぎ生協とコープふくしまの組織合同	36
コープ東北サンネット事業連合との関係	36
内部統制・システム整備	37
組織概況	38

みやぎ生協・コープふくしまのステークホルダー

メンバー（組合員）を含む消費者、職員、取引先・めぐみ野生産者、地域社会（自治体、団体、他生協）、地球環境（未来の人々）

掲載範囲

- 対象期間 2019年3月21日～2020年3月20日（特別記述がない場合）
- 対象範囲 みやぎ生協・コープふくしま、コープ東北サンネット事業連合とその子会社・関連団体
本紙でご紹介する取り組みの該当範囲を示すため、見出しの横に以下のようなアイコンを記載します。



……みやぎ生協



……コープふくしま



……コープ東北

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

世界を変えるための17の目標



あらゆる場所のあらゆる貧困をなくそう



誰もが栄養のある食べ物を手に入れられるようにし、持続可能な農業を応援しよう



誰もが健康的で幸せな生活を送れるようにしよう



誰もがきちんと教育を受けられ、大人も学べる機会を持てるようにしよう



男女平等を実現し、女性が活躍できる機会を増やそう



誰もが安全な水ときれいなトイレを利用できるようにしよう



誰もが安全で持続可能なエネルギーを利用できるようにしよう



持続可能な経済成長を進め、誰もがやりがいを感じられる仕事を持てるようにしよう



産業発展のための強いインフラを整え、新しい技術を開発しよう



あらゆる場所の不平等をなくそう



安全で安心して暮らし続けられる街づくりを進めよう



商品を作る人も使う人も、地球と人にやさしい行動をとろう



気候変動や異常気象に対して、対策を考え実行しよう



持続可能な漁業や開発で、海の豊かさを守ろう



森林や里山を守り、生態系と生物多様性も守ろう



平和な社会を実現し、誰もが公平な司法にアクセスできるような制度を整えよう



あらゆる立場の人、団体が協力し合い、これらの目標を達成しよう



みやぎ生協・コープふくしまの理念、事業、運動は、SDGsと多くの部分で重なり合っています。



コープSDGs行動宣言

私たちは、2018年に日本生協連で採択された「コープSDGs行動宣言」に賛同し、持続可能な社会づくりにこれまで以上に取り組みます。

誰もが安心して暮らし続けられる地域社会づくりに参加します

私たちは、誰一人取り残さず、安心して暮らし続けられる地域社会づくりに参加します。自治体や諸団体との連携を大切にしつつ、地域の見守り、移動販売や配食事業など、生協の事業や活動のインフラを活用し、地域における役割発揮を進めます。



健康づくりの取り組みを広げ、福祉事業・助け合い活動を進めます

私たちは、食生活、運動、社会参加の視点から健康づくりを進めます。安全・安心はもとより、より健康な食生活に向けた商品事業と組合員活動を推進します。生活習慣病や介護予防など「予防」を重視し、福祉事業や助け合い活動を広げ、自治体や諸団体と連携し、地域包括ケアシステムのネットワークに参画します。



地球温暖化対策を推進し、再生可能エネルギーを利用・普及します

私たちは、地球の持続可能性を揺るがす気候変動の脅威に対して、意欲的な温室効果ガス削減目標（2030年環境目標）を掲げ、省エネルギーと再生可能エネルギーの導入に積極的に取り組みます。再生可能エネルギーの電源開発や家庭用電気小売を広げ、原子力発電に頼らないエネルギー政策への転換をめざします。



持続可能な生産と消費のために、商品とくらしのあり方を見直していきます。

私たちは、「つくる責任」と「つかう責任」の好循環を発展させ、持続可能な社会づくりをめざします。国内外の人々、そして限りある地域資源へ思いをはせ、商品の開発と供給を進めます。学習活動を通じて、エシカル消費や持続可能な社会に関する理解を促進し、私たち自らの消費行動やくらしのあり方を見直していきます。



ジェンダー平等（男女平等）と多様な人々が共生できる社会づくりを推進します

私たちは、地域における活動を通じて、社会のジェンダー平等と多様な人々が共生できる社会の実現に貢献します。女性も男性も、誰もが元気に、生きがいを持って働き続けられる生協づくりを進めます。



世界から飢餓や貧困をなくし、子どもたちを支援する活動を推進します

私たちは、誰一人取り残さない世界をめざして、世界が抱える問題についての理解を深め、助け合いの精神を貫き、ユニセフ募金などに取り組み、世界の子どもたちを支援します。「貧困」の連鎖をなくしていくために、子どもの貧困について学び、話し合う活動を広げ、子ども食堂やフードバンク、フードドライブなどの取り組みを進めます。



核兵器廃絶と世界平和の実現をめざす活動を推進します

私たちは、「核なき世界」の実現のために、世界の人々と手を携えて、核兵器を廃絶し、平和な社会をめざす取り組みを進めます。私たちは、次の世代に被爆・戦争体験を継承し、日本国憲法の基本原則である平和主義のもと世界平和の実現に積極的に貢献します。



私たち生協は、SDGs(持続可能な開発目標)に貢献することを約束(コミット)します。

私たちは、「生協の21世紀理念(1997年日本生協連総会決定)」のもと、助け合いの組織として、誰もが笑顔でくらすことができ、持続可能な社会の実現をめざし、様々な取り組みを進めてきました。誰も取り残さないというSDGsのめざすものは、協同組合の理念と重なり合っています。私たちは、あらためて持続可能な社会の実現に向けて取り組むことを、「SDGs行動宣言」としてまとめました。私たちは、以上7つの取り組みを通じて、世界の人々とともにSDGsを実現していきます。



みんなでつくる 豊かな暮らし



食品の安全・安心

いつの時代も変わらない「安全な商品を安心して利用したい」というメンバー（組合員）の願いを叶えるため、設立以来、安全でより良いものを供給することを事業の重要な柱としています。

みやぎ生協・コープふくしまは、メンバー（組合員）が安心して商品を利用できる生協づくりを進めます。取引先および生産者と共同し、取り扱う食品の安全管理のレベルを向上させ、食に関するメンバー（組合員）の願いの実現をめざします。そのために、以下の基本方針に基づく取り組みを進めます。

① 取引先、生産者、メンバー（組合員）とコミュニケーションをはかり、生産・仕入れ・製造・加工・メンバー（組合員）への供給の各過程を通して、食品の安全性を高めます。

- (1) 食品の安全マネジメントシステムで適切な課題・目標を設定して実行し、その進捗状況を検証し、定期的に見直し、継続的な改善ができる仕組みをより確かなものにし、運用します
- (2) 重大商品事故の兆候を見逃さない仕組みを向上させるとともに、万が一重大商品事故が発生した時の被害を最小にするため、対応方針・手順を明確にし、訓練します。
- (3) 安全な食品をお届けするために必要な職員の力量を高めるために、教育・啓発を計画的に行います。

② 食品の安全や衛生に関する法令・規制を順守するとともに、必要に応じてそれらに基づく内部ルールを制定し管理を進めます。

③ メンバー（組合員）と産直生産者の交流を活発にし、「顔とくらしの見える産直」活動の輪を広めます。

④ 県内産・国内産食品の取り扱い拡大と食料自給率の向上に寄与する活動を進めます。

⑤ 食に関する学習・体験の活動にメンバー（組合員）や他団体と協力して取り組み、安心できる食生活の実現に貢献します。

この食品の安全に関する基本方針は、生協内外に公表します。

2011年4月22日 みやぎ生活協同組合

● 商品の安全対策室

■ お申し出対応教育

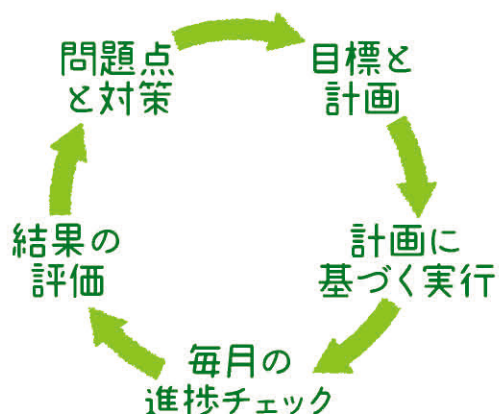
2008年「中国製冷凍餃子農薬混入事件」のときに決意したこと・反省したことを風化させないため、入協時と毎年2月度に、事件の内容と教訓、信頼されるお申し出対応について職員全員が学習・確認しています。

■ 重大商品事故管理システム

重大な事故につながりかねない兆候を見逃していないか、お申し出に対する判断や対応に誤りはないか、お申し出となった原因解明と再発防止策はしっかり行われているかなど、最後まで対応状況を監視しています。



● 食品の安全マネジメントシステム



各部署で、「食品の安全・安心に関する基本方針」に基づく目標と課題を立て、進捗状況を確認しています。その取り組みの有効性は、内部監査や外部検査の結果も踏まえて評価し、目標に至らない場合には原因を明らかにして対策を補強することで改善を積み重ねています。

● 商品検査センター



商品検査センターでは、店舗や共同購入で扱っている商品（インストア商品含む）について、微生物検査や残留農薬検査、放射性物質検査を行っています。

● 2019年度 商品検査検体数一覧

微生物検査

	検体数
共同購入商品	1,804
店舗加工商品	2,105
店舗一般商品	1,533
COOP 商品 生産部商品	1,105
取り扱い前商品など	2,783
合 計	9,330

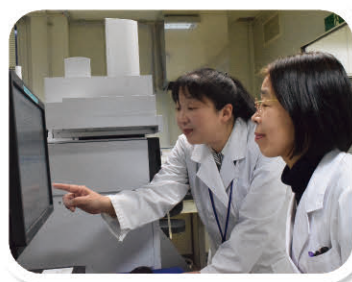
残留農薬検査

	検体数
「めぐみ野」野菜	343
「めぐみ野」米	25
一般商品	16
合 計	384

※検査結果は、産地の栽培計画や管理向上のために活用しました。

放射性物質検査

	検体数
めぐみ野品、コープ東北産直	166
COOP 商品	12
古今東北	10
アクアクララ水	12
大豆の会	12
一般市場品（野菜・果物）	28
一般市場品（魚介類）	68
合 計	308



メンバー（組合員）の皆様安心して商品を利用していただくために、生協の共同購入や店舗で取り扱う商品の安全性を科学的に検証しています。



生産者と消費者をつなぐ

顔とくらしの見える産直「めぐみ野」50周年



店舗商品本部長が語る

生産者と消費者をつなぐ 私たちのDNA

「めぐみ野」生産者の皆さんは、メンバー（組合員）の声に沿っておいしいものを届けるために、本当に努力しています。例えば、「めぐみ野」今朝どりレタスは生で食べることを前提に、朝日が昇る前に収穫したレタスを箱詰めし、温度管理を徹底して鮮度のいいものを出荷しています。また「めぐみ野」トマトと梨の生産者は、出荷前に全員が集まって、「あなたのトマトはこうだ」「あなたの梨はこうだ」と話し合います。あまり注目されませんが、「おいしさ」の面でも努力しているんです。

1993年の冷夏や2011年の東日本大震災など、色んなピンチがありましたが、それでも「産直」がなくならなかったのは、やはり生産者と消費者の双方の願いをぶつける「交流」があるから。それが産直のスタートであり、私たちのDNA。「生産者や生産方法がわかる」というのは

他社でもやられていますが、この視点はほかにありません。

生産者の方々は、稲刈りの忙しい時期でもお店の試食推奨活動にいらしたり、わざわざ自ら商品をお店に運んでくださ

ったりして、本当に頭が下がります。生産者にとっても「自分が作ったものの感想を直接聞いたり、反応を見たりできる」ということで展望につながり、後継者にもつなげやすいんですよ。



コープ東北
店舗商品本部長
今野 一彦

● 消費者・生産者の共通の願いを実現するために

みやぎ生協は「顔とくらしの見える産直 めぐみ野」の取り組みを通じて、自然環境や生物多様性、人を大切にする農業や漁業の維持・発展・食料自給率の向上に取り組んでいます。

「顔とくらしの見える産直 めぐみ野」3つの基準

- ① だれ(生産者)がどこ(産地)で作ったかがわかること。
- ② どのように作ったか(栽培・飼育)がわかること。
- ③ 生産者とみやぎ生協のメンバー(組合員)の交流があること。

● 生産者がつくる「めぐみ野」旬菜市場

生産者自身が規格と価格を決めた商品を並べる「めぐみ野」旬菜市場。決まった時間にお店に直接届けてくれる生産者もいるため、メンバー(組合員)との交流も生まれる直売所的な売場です。



● 食と環境を守る田んぼ 飼料用米の活用で支える

「めぐみ野」豚肉・鶏肉・大沼牛・鶏卵・角田丸森産牛乳・銀さけの生産には、飼料用米を加えたエサを使っています。飼料用米の生産と消費が増えると水田が維持され、それが食料を自給する力の向上と環境保全につながります。



● メンバー（組合員）との交流で作ってきた「産直めぐみ野」

「めぐみ野」は同じ地域・日本にくらす者同士がお互いに交流しながら、「ともに地域をよく変えていこう、豊かな地域をつくっていこう」という事業活動・運動です。毎年、季節ごとの産地見学や収穫体験のほか、店舗などでの学習会を数多く開催し、年間延べ8,000人の人々がこの活動に参加しています。



産地や店舗での交流会のほか、生産者、メンバー（組合員）、関係者が一堂に会する年に1度の交流集会には、毎年1,200人以上が参加。率直な意見交換によって、新たな発見や次へつなげるアイデアが生まれることもあります。

みんなわくわく 生き物いっぱいの田んぼ

「めぐみ野」は、有機肥料の活用など、土づくりに取り組んでいます。

豊かな土は生物多様性にも貢献し、「めぐみ野」米・野菜の産地である宮城県の大崎地方は、2017年、「世界農業遺産」に登録されました。田んぼを訪れる子どもたちは「どうしてこんなに生き物がいるの?」と目をキラキラさせています。



農業が社会問題となっていた1970年代。私たち田尻農協（当時）の生産者は、農薬が地域や自分たち自身に与える危険性について考えていました。そんな中、同じように食の安全を考えるみやぎ生協のメンバー（組合員）と出会い、1981年に田尻から産直野菜の出荷が始まりました。メンバー（組合員）は、交

流の中で生産者の思いや苦労を理解され、買い支えていただいたことで、生産者が「取り組んでよかった」と思える結果につながったのだと思います。

「めぐみ野」米、野菜生産者

田尻エコベジタブル 代表取締役
佐々木 陽悦さん



● メンバー(組合員)と生産者との交流から生まれた「牛乳タオル1本運動」

1991年、メンバー(組合員)で構成された産直牛乳委員会が鳴子上原酪農組合を訪問したとき、牛乳をしぼる際に使うタオルの消耗が激しいことを耳にしました。

そこで、ささやかな支援として、家庭でねむっているタオルのカンパを広くメンバー(組合員)に呼び掛ける「タオル1本運動」が始まりました。おいしい牛乳の生産に励んでもらうために続けているこの活動で、これまで累計12万本以上のタオルを届けています。



1991年 タオル一本運動 タオル贈呈式

交流の歴史は 未来の絆に

「顔とくらしが見える」関係は、メンバー(組合員)にとっての安心感だけでなく、「買ってくれる人がいる」「作り続けられる」という生産者の希望にもなります。

生産者の皆さんが地域で農業や漁業、畜産業などを長く続けていくためにも、助け合う「協同」の力である「めぐみ野」の活動を大切にしていきます。



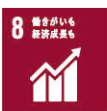
2014年、宮城県南三陸町戸倉のほや生産者の方から販路について相談されたことから「今朝どりほや」が始まったんです。ほやの韓国への輸出が禁止されたことで、産地は非常に厳しい状況です。そんな中「めぐみ野」は、「ほやを作り続けても大丈夫」という安心感を生産者に与え、産業としてのほや養殖を将来に向けてつなぎとめてい

る。生産者が求めているのは「安定して買っていただけること」であり、買ってくれる人の顔が見えていると安心して息子にもバトンタッチできます。

水産物仲卸業
「めぐみ野」今朝どりほや、
かつお、まぐろ お取引先

株式会社 仙台宮水 社長
鈴木 雄一さん





東北の食と産業を伝える“古今東北”



東日本大震災で甚大な被害を受けた東北地方。「古今東北」ブランドは、東北6県の企業中心に作る食材や加工品を全国に発信し、販路を拡大することで復興と地域振興を後押しすることをめざしています。



風評被害の払しょくと南相馬の復興に

原発事故後、住民全員が避難した福島県南相馬市の小高地区。避難解除後、「これから小高地区の農業をどうするか」という長い話し合いの末、7つの集落営農組織が出資して会社を設立しました。

「ふっくらパックごはん」に使っている「天のつぶ」は福島県の品種。常に「安全安心でおいしいものを届けたい」という思いでお米を作っています。



株式会社 紅梅夢ファーム

代表取締役 佐藤 良一さん

工場再建の後押しは地元同業者との絆

岩手県大槌町は津波の被害を受け、今はかつての面影もありません。私たちの工場も流されましたが、当時は周りがみんな同じ状況。周りの加工業者さんたちとチームを組み、支えあいました。単独だったらそんな気力も持てなかったと思います。



昔ながらの干物とは違って、文字通り「ふっくら」とした「寒さばのひもの」。原料の吟味と人の力を合わせてたどり着いた食感です。

石山水産 株式会社

代表取締役 石山 勝貴さん



秋田の伝統の味を全国へ

秋田伝統の漬物「いぶりがっこ」。原料としている「白首大根」は、自社農園で栽培し、細身で曲がりにくく、いぶりがっこに非常に適しています。おいしくて安全安心ないぶりがっこを食べていただくために、人工甘味料、保存料、着色料を使わずに作っています。



東北の復興のお手伝いをしながら、「がっこ」づくりに精進したいと思います。

井上農園 いぶりの里

井上 時雄さん

● 生協以外の販路

みやぎ生協・コープふくしま以外にも販路を広げるために、子会社(株)東北協同事業開発のもとで開発される「古今東北」商品。全国の生協のほか、地域の小売店、楽天市場でのネット販売にも広がり、取り扱うアイテム数も増え続けています。



● 宮城学院女子大学の学生考案

宮城学院女子大学現代ビジネス学部のゼミに協力したことから、学生による「古今東北」商品開発がスタート。東北のメーカーと協力しながら、新たな商品を生み出しています。



地産地消でつながる地域“ふくしま大豆の会”



生産者・加工業者・消費者が連携し、福島県産大豆を使った安全安心な加工品を作っています。大豆の産地では、毎年「畑の学校」という活動の中で、消費者が種まきから収穫、みそ造りまで体験して生産者などと交流しています。



ふくしま県本部 事務局
根本 茂

コープふくしまは、発足の提案者として利用会員の拡大、流通網の構築に向け、JAグループと一緒に中心的な役割を担ってきました。今後も交流を深めながら産地育成を進めていきます。





地域コミュニティと学びの場の提供

● 生き生きとしたメンバー(組合員)活動

メンバー(組合員)の共通の願いを叶えることをめざす生協では、メンバー(組合員)による自主的な活動が大きな柱となっています。メンバー(組合員)の意見を生協の運営に反映させるのはもちろん、メンバー(組合員)自身が企画・参加し、交流することで地域のコミュニティ形成にも役立っています。



■ メンバー(組合員)が主役の地域活動



こ〜ぶ委員会(みやぎ)
コープ委員会(ふくしま)

地域のメンバー(組合員)が組織するコミュニティで、生協の取り組みやくらしにかかわる様々なことを知り学びながら、興味関心のあることを自分たちで企画し、「楽しくてためになる」活動をしています。

こ〜ぶのつどい(みやぎ)
ふれあいコープ(ふくしま)

地域のこ〜ぶ(コープ)委員会が主催し、生協の事業・活動、生協の商品やくらしについてお知らせしています。メンバー(組合員)が意見・要望を出し、運営参加を実感できる場です。メンバー(組合員)以外の方も参加できます。



■開かれた趣味と学びの場

サークル活動・カルチャー活動



くらしのことや趣味を通してワイワイするサークル活動、生協に登録した講師のもとで趣味や文化活動を楽しむカルチャー活動です。仲間とあつまり、つながり、学びあう楽しさを感じられるコミュニティです。



コープカレッジ



地域の中でさらに豊かにくらししていく為の「学び」「体験」の場として、参加者同士の交流を大切にする活動です。



コープカレッジ 2019年度のテーマ

- 「若い」
- 「アンチエイジング」
- 「福島の現状を知ろう」
- 「地域の中で自分らしく生きる」

専門委員会



興味・関心のあるテーマについて「もっと知りたい」というメンバー（組合員）のための集まりです。年に10回例会を開き、それぞれの分野で学んだことを、委員会やこ〜ぶのつどいなどで多くのメンバー（組合員）に広げます。



2020年度の専門委員会

- 1 「めぐみ野」委員会
- 2 食育活動委員会
- 3 消費生活委員会
- 4 平和委員会
- 5 環境委員会



● 子育て応援

■ 子育てひろば（みやぎ） 親子ひろば（ふくしま）



0歳～未就園児とご家族を対象とした「子育てひろば」「親子ひろば」を店舗などで開催しています。年の近いお子さんを持つ親同士で交流し、「子育てが楽しい」と思える時間になっています。また、野菜ソムリエと食育インストラクターの資格を持つ「コープママ」が、子育てひろばや様々なイベントで活躍しています。



コープママこと
共同購入運営部

曾田 洋子



「食えること、食えるものを大切にすること」「楽しく・美味しく・健康に」をキーワードに活動しています。生きる上での基本となる食。安全性や栄養には気を使いますが、作ることや選ぶことも親子で一緒に楽しんでいただければと思っています。最近では、自治体やPTAの方々からのご要望で、コープの冷凍離乳食「きらきらステップ」を紹介する機会も増えているんですよ。

■ 子どもたちの食育をすすめる活動



お取引先様や民間団体と協力しながら、多くの料理教室や食育イベントを開催しています。その中の1つ、「5 A DAY 食育体験ツアー」という食育活動は、宮城県内の小学校や幼稚園の授業でも活用されています。



■ココイククラブ



子育て家族を応援する会員サービス。お店や共同購入をお得に利用できるほか、会員限定サイトでは、離乳食レシピやおすすめ絵本など、子育てに役立つ様々な情報を公開しています。



■すくすくばこ



宮城県で新生児が生まれたご家庭へ、協賛企業様からの育児グッズなどが入った「はこ」をお届けしています。「はこ」はお子さんの成長過程の思い出の品を保管するタイムカプセルにもなります。



■教育現場への支援



学校現場への支援

かつての「宮城県学校生協」を母体とするみやぎ生協学校部は、宮城県内の学校への講師紹介など様々な取り組みを通して、教育現場を幅広く支援しています。また、環境、食、福祉のような、みやぎ生協の社会的活動の中で学校教育につながるものを掲載した『COOP 授業に役立つ学習ガイドブック』を、宮城県内のすべての小中学校へお届けしています。



子育て家庭への支援

小学校での英語教育やプログラミングの授業の推進など、学校現場は日々様変わりしています。そのような中、習い事の一環として、英語クラブ、プログラミングクラブなどを運営しています。楽しい学習を通してコミュニケーション力や論理的思考を高められる体験活動は、子どもたちにも好評です。





安心してくらせる 地域づくりのために



3 すべての人に
健康と福祉を



10 人や国の不平等
をなくそう



11 住み続けられる
まちづくりを



17 パートナースhipで
目標を達成しよう

買い物にも安心を

● 店舗事業



買い物に困難を抱える方をサポートできるサービス・ケア・アテンダント資格者の育成や、バリアレスな店舗内装など、地域の皆さんが買い物をしやすいお店づくりをめざしています。



私たちがめざす店と、地域に求められている店の姿は同じだと思います。生協として、商品を提供するだけでなく、生活のあらゆる困りごとを丁寧に聞き取って対処することを大切にしています。



八幡町店 店長 及川博子

■ 地域密着型コンビニFamily Mart + COOP

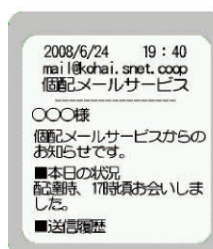
みやぎ生協の子会社が運営する「Family Mart + COOP」は、買い物困難地域でも貢献できる店舗として、現在宮城県内2ヶ所（七ヶ宿町、仙台市鶴ヶ谷）で営業しています。お買い物だけではなく、友達同士が集まるコミュニティの場として、ふれあいや楽しさを感じられる「昔ながらの商店」のような地域密着型のお店づくりをめざしています。



● 共同購入・個人宅配、夕食宅配事業



少子高齢化が進む中、宅配事業に求められる社会貢献としての役割も大きくなっています。個人宅配時の在宅状況を、離れて暮らす親族へお知らせするメールサービスをはじめ、週に5回配達のある夕食宅配での見守り活動など、安心してご利用いただける取り組みを進めていきます。



多様な買い物のかたち

● 移動店舗せいきょう便



現在、宮城県5店舗、福島県1店舗を拠点に運行しているせいきょう便。年々深刻になる買い物困難地域のニーズに対応しながら、運行台数とエリアを拡大し続けています。

運行エリア



稼働台数

宮城県内 10台
福島県内 1台

(2020年3月20日時点)

利用者の声

「足が悪くて普段の買い物は人に頼んでいます。移動店舗が来ると便利だし、自分で選べる楽しさがあります」

「以前は共同購入を利用していたので、生協の商品はいいということを知っているんです」



● 買い物代行サービスこ〜ぷふれあい便

会員登録をしていただいた方を対象に、週2回、お店の商品を自宅まで届ける買い物代行サービスです。現在は宮城県内17店舗で取り組み、地域の見守り活動としても役立っています。



はじめは、自分で選んだ商品を初めて初対面のメンバー（組合員）に届けるということに、とても緊張していました。回を重ねるうちに「佐々木さんが選んだものを信用してるから」と言ってくれるようになり、私も「次はもっといいものを届けよう」と思えて、自分の買い物よりも気を使って鮮度などをチェックするようにしています。

明石台ふれあい便担当 佐々木ひとみ



ふれあい便担当 佐藤緑(左)と佐々木ひとみ(右)



社会福祉の向上

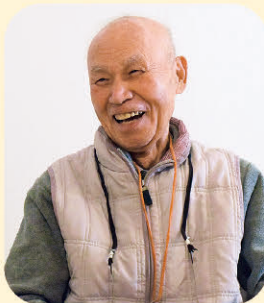
● 社会福祉法人 こーぷ福祉会



介護・福祉事業を担うこーぷ福祉会は、在宅高齢者向けの介護拠点を宮城県仙台市内の3ヶ所に設置しているほか、サービス付き高齢者向け住宅「こ〜ぶなごみの杜桜ヶ丘」を開設し、高齢者の自立した生活を支援しています。また、待機児童対策として、事業所内保育園も仙台市に設置しています。



こ〜ぶなごみの杜桜ヶ丘入居者の声



食事は、医者から言われたメニューを相談して出してもらっています。近くの生協に歩いて行ったり、近くの公園を巡ったり、施設の中にあるトレーニング器具で体を動かしたりしています。職員さんは一生懸命で気を使ってくれるので、私も職員さん全員の名前を覚えるようにしています。



■ お店に地域包括支援センター

仙台市の委託を受け、こーぷ福祉会が運営している桜ヶ丘地域包括支援センターは、みやぎ生協桜ヶ丘店の一角にあります。お店の中にあることで、買い物のついでに気軽に寄ることができます。

● こ〜ぶくらしの助け合いの会



「住みなれた地域で安心してくらしたい」「少しの手助けがあれば自立した生活が出来るのに」という思いを抱える会員どうしの助け合い、支え合いの活動です。高齢の方、障がいのある方、子育て中の方などのために、くらしのお困りごとを、お手伝いできる会員が、有償で行っています。

活動内容例

- 家事支援
- 食事作り
- 話し相手
- 買い物
- 通院など外出の付き添い
- 産前産後の支援
- 草取りなど





セーフティネットとしての役割

● 暮らしと家計の相談室(生活相談・家計再生支援貸付事業)



家計見直しのアドバイスや金融機関などから借り入れができない場合の生活資金のご相談など、お金に関する様々なご相談をお受けしています。必要に応じ、公的制度、法的整理のご紹介、また生協独自の貸し付けも検討します。



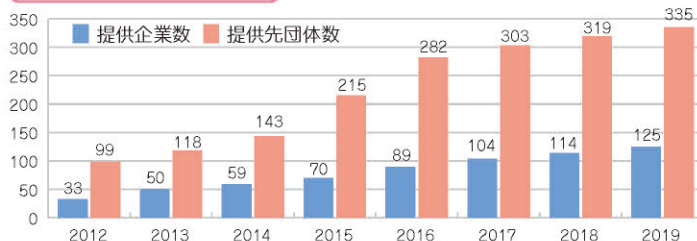
内容によってはすぐに弁護士などの専門家や消費生活センター、警察、行政などの公的機関等へつなぐなど、相談者の問題解決をサポートします。

● コープフードバンク



お取引先様などから余剰食品の無償提供を受け、社会福祉団体などに無償で提供しています。食品の無駄をなくすとともに、誰でも安心してらせる地域づくりをめざしています。

提供先団体・施設数



● こども食堂



子どもたちの「孤食」を防ぎ、居場所をつくるため、無料または低価格で子どもたちに食事を提供する「こども食堂」。宮城県・福島県各地の民間団体と連携し、店舗の集会室・調理室などで心温まる食事の提供を通して、子どもに限らず、地域の方々も含めた交流の場づくりを応援しています。





自治体・民間団体との連携

● 民間団体への支援

■ みやぎ生協福祉活動助成金



地域福祉の向上をめざし、福祉活動に関わる地域活動や研究活動を支援する事業に、毎年2回、総額1,000万円を上限に助成金を拠出しています。贈呈式には助成団体が集まるため、分野を超えた団体との交流の場にもなっています



2019年度上期 助成団体 (24 団体)

- 囲碁将棋ボランティア
- みんなんちクラブ
- 不登校を考える親の会 ひまわりの会
- 一般社団法人ここまむぶらす
- 一般社団法人生活応援倶楽部からーず
- ファーシル
- 一般社団法人仙台先進学習サポート
- 特定非営利活動法人 FORYOUにこにこの家
- 障害者の移動と社会参加を広げる会
- みやぎ盲ろう児・者友の会
- 宮城県学童保育連絡協議会
- 宮城いきいき学園大崎校 24期会
- 西公園プレーパークの会
- フードバンクいしのまき
- ほっとスペースわか
- 優生手術被害者とともに歩むみやぎの会
- NPO法人ふうどばんく東北 AGAIN
- 東北大学インクストーンズ
- 安心・安全な町づくり
- 石巻市民公益活動団体一歩を楽しむ石巻
- みんなで楽しみながら食べる食楽食堂
- Precious One
- 特定非営利活動法人J-PAL
- 仙台に夜間中学をつくり育てる会

2019年度下期 助成団体 (19 団体)

- 宮城県心臓病の子供を守る会
- 大崎不登校を考える会
- 宮城県手話通訳問題研究会
- 一般社団法人メンタルケア協会宮城事務所
- おだわら子ども食堂
- ちびぞうくらぶ
- 特定非営利活動法人ハンス・バーガー協会
- やおとめこども食堂
- ここほっとネット
- みさとひまわり食堂の会
- あそび場★共和国実行委員会
- 柴田町点訳サークル「ほたる」
- 特定非営利活動法人アクティブ地域活動推進センターアクティブ・デイ
- みやぎ多胎ネット
- 産着手縫いの会
- まるわ
- 唐桑地区手をつなぐ育成会
- みやぎっ子『食』『農』くらぶ
- 子供の問題を考える会仙台

■ COOPトリプルカード みやぎスマイル基金



みやぎ生協と(株)日専連ライフサービス様が社会貢献を目的に協力して始まった「みやぎスマイル基金」。COOPトリプルカードでの決済1回につき1円を1年間積み立て、年に1度、社会貢献のために活動している組織・団体を助成しています。



コープトリプルカード

みやぎ生協、日専連加盟店、JCB加盟店で利用できるクレジットカードです。

● 自治体等との連携

■ 包括連携協定



みやぎ生協は、宮城県内の自治体と包括連携協定を締結しています。「誰もが安心してらせる地域づくり」に向け、これからも幅広い分野で連携していきます。

協定締結自治体一覧

●宮城県 ●石巻市 ●七ヶ宿町 ●塩釜市 ●大崎市
●富谷市 ●仙台市 ●白石市 ●利府町 ●東松島市
(2020年4月末時点)

■ 高齢者見守り協定



共同購入・個人宅配などの宅配サービスでは、配達時にいつもと違う状況に気付いた場合に行政窓口へ連絡し、安否を確認しています。宅配の強みを活かし、これからも地域貢献の輪を広げていきます。

2019年度メンバー（組合員）異変発見件数

共同購入・個人宅配	15
夕食宅配	14
ふれあい便	33
計	62



■ 首長・議員懇談会



宮城県内の首長や県議、市議、国会議員と、メンバー（組合員）との懇談会を年に1回行っています。「誰もが安心してらせる地域づくり」というテーマで、生協と行政それぞれの取り組みについて情報交換し、メンバー（組合員）からは地域住民としての率直な意見を直接行政に伝える貴重な機会になっています。

参加メンバー（組合員）の声

「新しく就任した首長から『懇談会で生協さんの活動をいろいろ知ることができました』と言ってもらえて、とても身近に感じました。」

「よりよい生活のために、疑問や問題を感じる点を伝えました。」

「市長をはじめ多くの職員さんに来てもらい、意見や要望に丁寧に答えていただきました。」

「台風19号があったので、同じような災害になった時の町の方針などをお聞きできました。」





防災・災害支援 東日本大震災を乗り越えて

● 放射能への不安と向き合う



東京電力福島第一原子力発電所の事故を受け、コープふくしまでは、組合員が抱える放射能汚染への不安に寄り添う活動をしてきました。その中でも、実際の食事に含まれる放射性物質調査（「陰膳方式」の食事調査）は、今でも福島県の消費者の安心感につながっています。

■ 陰膳方式による食事調査



「陰膳方式」とは？

家族の人数より1人多く食事を作り、その中の成分について測定する検査方法です。本調査では、食事に含まれる放射性物質の量を測定しています。2日間の飲食（1日3食とおやつ、飲料を含む）を冷凍保存して日本生協連商品検査センターに送ります。

2011年から続いている陰膳方式による放射性物質調査（食事調査）。2019年度は6月～翌年1月にかけて福島県内100世帯、宮城県内30世帯で行い、結果をホームページや福島県の地元紙で公表しています。

食事の放射性物質調査は、消費者が直接参加することにより信頼性が高く世界的にも評価されています。



● 風化させない



東日本大震災や原発事故を風化させないため、被災地見学ツアーや全国の生協からの視察受け入れなどを続けています。

● 被災者に寄り添う



全国の生協の支援をいただき、様々な団体と連携しながら、仮設住宅や災害公営住宅でのサロン活動を続け、被災された方々に寄り添い続けています。

東日本大震災 学習・資料室

みやぎ生協文化会館ウィズ内にオープンし、震災当時の写真など展示しています。震災伝承ネットワーク協議会の「震災伝承施設」に登録され、お取引先様や県外の方にも幅広く見学いただき、ご要望に応じて職員がガイドとして解説します。



■災害時の応急生活物資供給協定の締結

宮城県・福島県内の27市町村、2団体と、災害時の応急生活物資供給協定を締結し、自然災害の発生時に、応急生活物資の供給要請に協力する体制を整えています。また、いざという時スムーズに動けるよう、協定を締結している自治体・団体との懇談会を毎年1回開催し、顔の見える関係づくりに努めています。



台風19号 (2019. 10. 12-13)



東日本を中心に甚大な被害をもたらした台風19号。みやぎ生協・コープふくしまは、被災された方々や、「めぐみ野」生産者、現地で活動するボランティアセンターへの支援、炊き出し支援などに取り組んでいます。



人的支援

被災された「めぐみ野」生産者のご自宅・農場・作業場の復旧作業や、丸森町災害ボランティアセンター運営支援のほか、各地の「めぐみ野」関係者の皆様との炊き出し支援活動、地域のメンバー（組合員）によるサロン活動を行いました。

■人的支援の実績

活動内容	のべ活動者数
「めぐみ野」生産者支援	343人
丸森町災害ボランティアセンター運営支援	196人 (全国生協からの支援者含む)
炊き出し支援	109人
サロン活動	24人
計	672人

財的支援

「めぐみ野」生産者への復興支援として100万円、角田市・丸森町の災害ボランティアセンター運営支援として100万円の支援金を拠出しました。

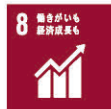
また10月21日～12月20日の間、宮城県・福島県の被災者と「めぐみ野」生産者を支援する募金をメンバー（組合員）・職員に呼びかけました。

■募金活動の実績

贈呈先	贈呈金額
宮城県の被災者へ	3,504,371円
福島県の被災者へ	1,402,281円
「めぐみ野」生産者へ	2,300,000円
総額	7,206,652円



公正で人にやさしい 組織づくりのために



働きやすさと多様性

みやぎ生協・コープふくしまでは、さまざまな雇用形態、ライフステージの人々が働き続けられる組織をめざし、多様な人材が活躍できる仕組みづくり、コミュニケーションの活発化に努めています。

● サークル活動支援制度

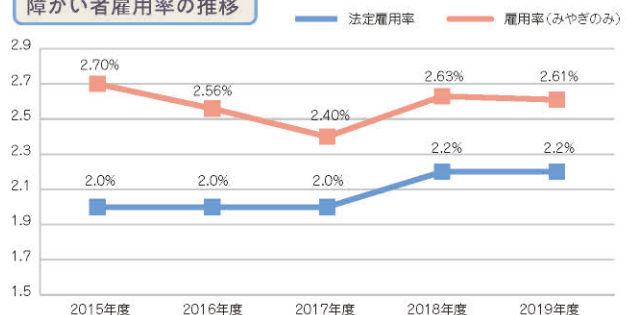
スポーツや趣味を通じて、部署・事業所の枠を超えたコミュニケーションを促すための支援制度。活動内容や活動計画などを申請してサークルとして認められれば、活動費用の一部を生協が支援します。現在は25のサークルが登録されています。



● 障がい者雇用

現在、みやぎ・ふくしま合わせて、店舗を中心に105人の障がいを持つ方が共に働いています。それぞれの特性や能力を活かせるように、周囲の職員や労政部が支援しています。

障がい者雇用率の推移



● 育児・出産・介護休業

みやぎ生協・コープふくしまでは、職員が出産、育児、介護をしながらも働き続けられるよう、法定基準以上の制度を整備し、ポスター等で周知しています。また、労政部職員が個別の相談に応じています。

■ 出産・育児支援制度

制度名	内 容	2019年度利用人数
妊娠時短	1日1時間取得可能。(レギュラー職員、エリア職員、学校用品協会社員)	4人
育児休業	第2子までは子どもが満3歳になるまで取得可能。(アルバイトは法定の1歳まで)	38人
育児時短	子どもが小学校3年生の終了まで取得可能(労働時間短縮)。	14人
子の看護休暇	小学校就学前までの第1子の場合は年間5日間、 2子以上の場合は年間10日間、1日単位で取得可能。	6人
配偶者出産休暇	通算2日以内で取得可能。	10人

■介護支援制度

制度名	内 容	2019年度利用人数
介護休業	対象家族1人につき通算1年取得可能（アルバイトは法定の通算93日間）。	12人
介護休暇	対象家族が1人の場合は年間5日間、2人以上の場合は年間10日間、1日単位で取得可能。	27人
介護時短	労働時間短縮	1人

● リハビリ勤務制度

メンタル不調で休職した職員がスムーズに復職できるように「リハビリ勤務規定」を設け、産業医、健康管理室、労政部が協力して復職後の就労支援を行います。

また、がんや難病と仕事を両立するために、該当部署、健康管理室、労政部が協力して支援しています。

誇りと展望が持てる風土づくり

みやぎ生協・コープふくしまでは、さまざまな雇用形態、ライフステージの人々が働き続けられる組織をめざし、多様な人材が活躍できる仕組みづくり、コミュニケーションの活発化に努めています。

● しごと報告カード

「しごと報告カード」は、仕事の中で発見したこと、改善のために実行したことなどを記入して提出するものです。優れた「しごと報告カード」については半期に一度表彰します。

また2020年度からは「しごと報告カード」で業務改善につながる提案も集め、さらなる生産性向上や、働きやすい職場環境づくりをめざします。

[illegible]



地球とエネルギーの 未来のために



環境理念

みやぎ生協・コープふくしまは、メンバー（組合員）と職員の活動や事業における取り組みを通して環境負荷の低減と自然との共生に貢献し、持続的に発展する社会づくりに寄与します。

環境方針

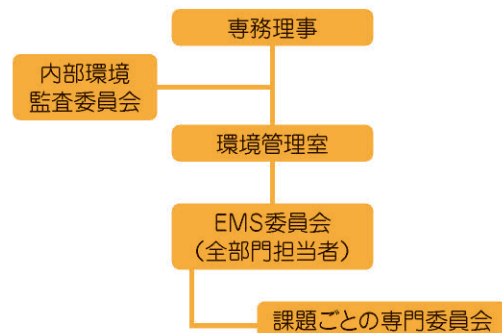
みやぎ生協・コープふくしまは、食料品、衣料品、日用品雑貨等の商品をメンバー（組合員）に供給していることを踏まえ、環境理念をもとに環境保全活動を進め、事業者としての社会的な責任を果たします。

「低炭素社会、循環型社会、自然と共生した社会づくり」の3つの視点で、重点課題として以下の4項目を柱にメンバー（組合員）とともに取り組みます。

- 1 生協事業におけるCO₂の総排出量削減
- 2 事業からの廃棄物の削減・再資源化
- 3 環境に配慮した地域社会の構築
- 4 商品事業における環境配慮

環境管理体制

みやぎ生協・コープふくしまでは、全部門で任命された「環境担当者」が「EMS（環境マネジメントシステム）」を運営管理しています。



2030年目標

「CO₂排出量 65%削減」

日本の小売業では、2030年までにCO₂排出量を「2013年比で40%削減する」という目標が定められました。みやぎ生協・コープふくしまはより厳しい「2013年比65%」という目標を掲げ、各事業所で省エネ化に努めています。

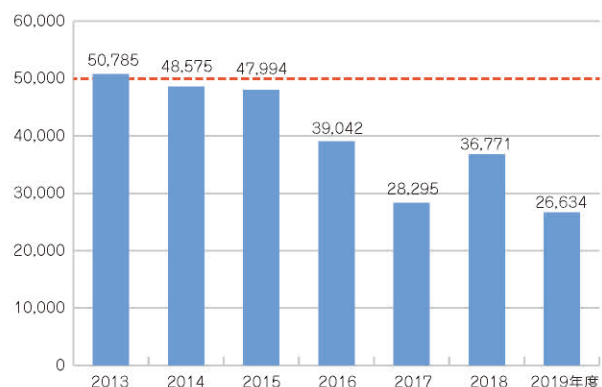
具体的には、地球温暖化係数（※₁）のきわめて低い自然冷媒（CO₂冷媒）を使った冷凍・冷蔵設備の導入、電気自動車やBDF（※₂）車の導入、再生電力比率の高い電力への切り替えなどに取り組んでいます。

こうした工夫により、2019年度末時点で、「2013年比55%削減」に到達しています。

※₁大気中に放出されたときに、一定時間内に地球に与える温暖化への影響の比率。

※₂使用済み食用油を原料にした軽油の代替燃料。Bio Diesel Fuelの略。

CO₂排出量 (t-CO₂)





再生可能エネルギーの普及拡大

● 再生可能エネルギー発電への投資



太陽光発電設備、廃食油を燃料としたSVO (Straight Vegetable Oil) コージェネレーション発電機を店舗、共同購入センター、本部へ設置しています。また、秋田県の風力発電事業や青森県・秋田県・岩手県の本質バイオマス発電事業などへ出資参画し、東北各地での再生可能エネルギー事業の拡大に努めています。

■ 福島市岡島ソーラーシェアリング発電所

2019年度、農産物を栽培しながら太陽光発電を行う「ソーラーシェアリング」事業を始めました。

福島県福島市岡島地区でブドウを栽培している長谷川農園さんの農地を借りてソーラーパネルを設置し、売電収入の一部を信達青果生産出荷組合連合会に寄付しています。



● みらいと暮らしにやさしい COCOENE(ココエネ)

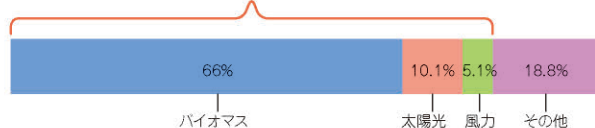


再生可能エネルギー構成比が85% (2019年度計画) の「ソフトでんき」と「コスパでんき」の2つのプランから選べるコープのでんきで、子会社の(株)コープでんき東北が販売しています。

環境負荷の少ない再生可能エネルギーで発電された電気の利用を広げることで、再生可能エネルギー発電の拡大、エネルギー自給率向上、環境負荷軽減に寄与します。

ソフトでんき電源構成実績 (2018年度)

FIT電気(※)比率 **81.2%**



(※1) この電気を調達する費用の一部は、当社以外のお客様も含めて電気の利用者が負担する賦課金によって賄われており、当社が販売するFIT電気は、CO₂排出量について、火力発電なども含めた全国平均の電気のCO₂排出量をもった電気として扱われます。

● 共同事業 「低炭素水素サプライチェーン構築に向けた実証事業」

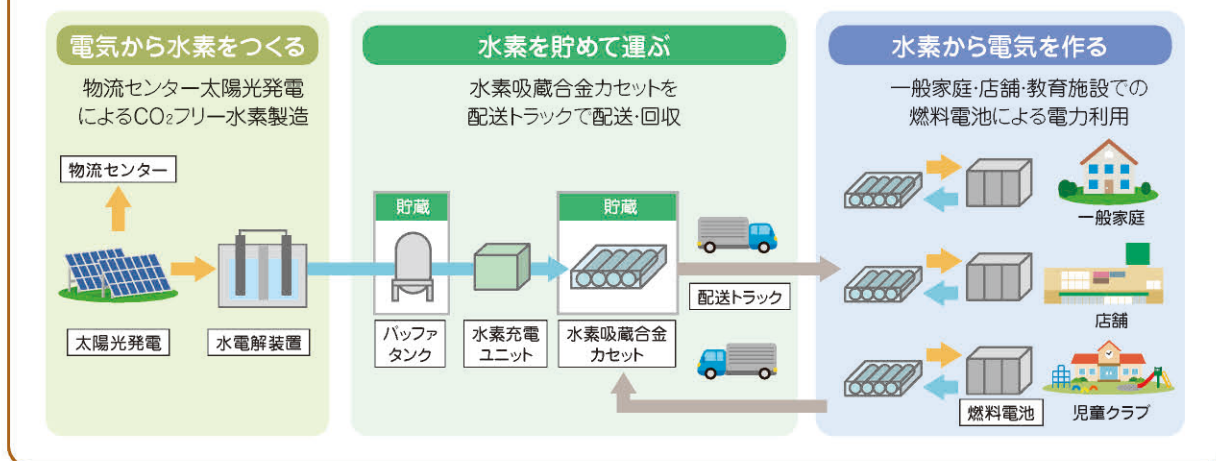


環境省が進める「地域連携・低炭素水素技術実証事業」の一環として、宮城県富谷市で、みやぎ生協の物流センターの太陽光発電で発電した電力から水素を製造し、エネルギーとして活用するサプライチェーンを構築する実証事業に参画しています

事業参画者

- 株式会社 日立製作所
- 丸紅 株式会社
- みやぎ生協
- 富谷市

■ 運用の流れ



循環型社会の構築～ 3R ～

● メンバー(組合員)からの資源回収



みやぎ生協・コープふくしまの店舗にリサイクルボックスを設置し、古紙や牛乳パック、プラスチック容器などを回収しています。

また、宮城県内の自治体による資源回収事業に協力し、小型家電や使用済み食用油の回収ボックスを店舗に設置している地域もあります。

■ 古紙リサイクルでお得に！

メンバー（組合員）から新聞紙、チラシ、雑誌、段ボール（一部店舗）などを回収する「古紙リサイクルボックス」をみやぎ生協34店舗、コープふくしま8店舗に設置しています。このボックスでは、古紙1kg回収することにより1ポイントを付与し、300ポイントがたまるとみやぎ生協店舗で使える「300円割引券」を発行します。

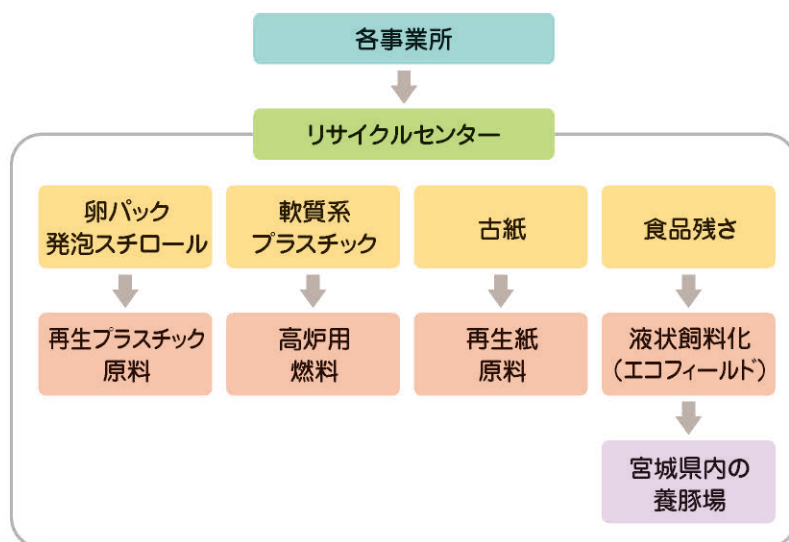


● みやぎ生協リサイクルセンター

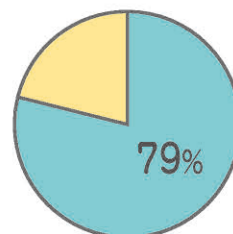


みやぎ生協では、メンバー（組合員）からだけではなく、事業所からも廃棄物を集め、自ら分別、収集、再資源化しています。紙類やプラスチック類のほか、店舗の農産・惣菜部門で発生した食品残さも集めており、エコフィード化※して県内外の養豚場に出荷しています。これにより、高い食品リサイクル率を維持しています。

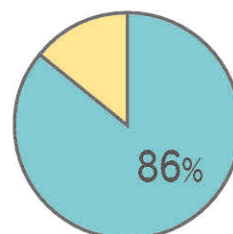
※乳酸発酵による液状飼料化



事業系廃棄物の
リサイクル率



食品リサイクル率

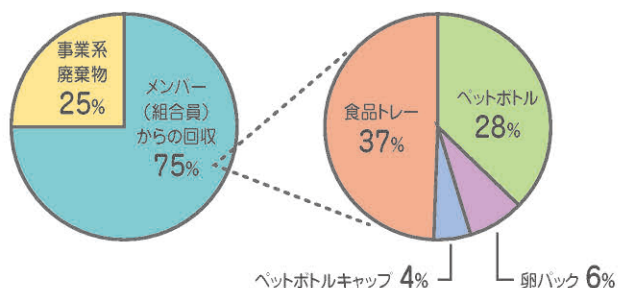


● プラスチック資源 100%リサイクル



みやぎ生協・コープふくしまはレジ袋の有料化に取り組むほか、メンバー（組合員）や事業所から集められたプラスチックごみのリサイクルに取り組んでいます。回収したプラスチックごみは、再生プラスチック素材や高炉用燃料として、100%再利用されています。

回収したプラスチック系廃棄物
内訳（重量）



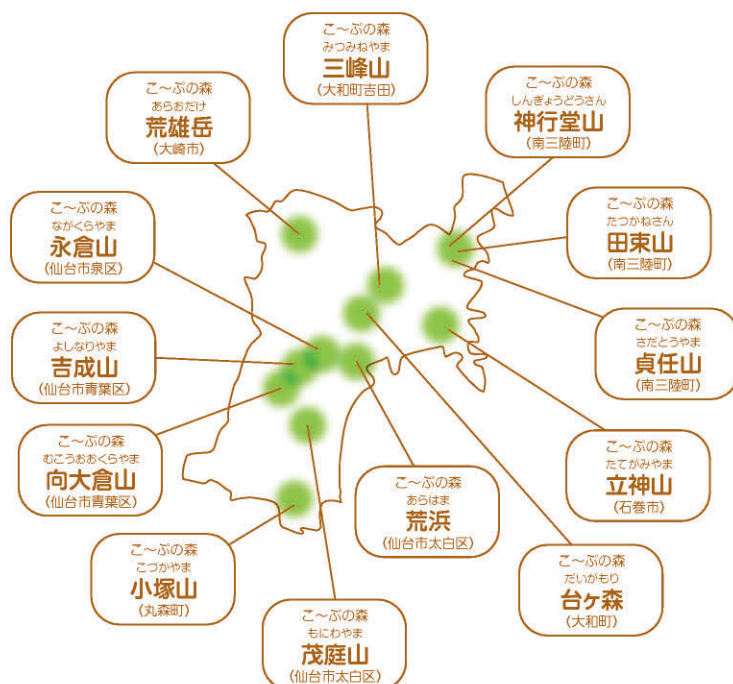


メンバー(組合員)と進める環境活動

こ〜ぷの森



宮城県内の緑と自然を豊かにするために始まった「こ〜ぷの森」の活動。アルミ缶や廃食油回収の売却益のほか、「COOP緑の基金」に寄せられた募金を活用し、植林や下刈などに取り組んでいます。また、メンバー(組合員)が参加できる活動として、春の植林体験会、夏や秋の観察会などが開かれます。



こ〜ぷの森は宮城県内13ヶ所に広がっています。



● 南三陸の海とこ〜ぶの森



夏休みの時期には、南三陸にある「こ〜ぶの森貞任山」と南三陸の海辺に出かける親子企画を開催しています。豊かな森が豊かな海をつくることを学び、生物多様性を実感できるバスツアーです。



■ こ〜ぶの森が育てるかき

志津川湾へ注ぐ川の上流に3つのこ〜ぶの森があり、広葉樹の森が広がる山々から栄養分をたっぷり含んだ水が湾に注ぎます。

「めぐみ野」志津川湾産かきがおいしく育つのも、こうした豊かな森のおかげなのです。



● 環境にやさしい商品の普及



みやぎ生協・コープふくしまは、「顔とくらしの見える産直 めぐみ野」商品、地産地消商品、環境配慮商品の普及拡大に取り組んでいます。そのことで低炭素社会、循環型社会、自然との共生（生物多様性）をめざしています。

主な環境配慮商品



■ エコマーク

生産から廃棄を通して環境負荷が少なく、環境保全に役立つと認められた商品。



■ FSC (森林管理協議会)

責任ある森林管理をしている林業者を支援し、世界の森林保全貢献につながる木材製品。



■ MSC (海洋管理協議会)

海の資源を枯渇させないよう、漁獲量や漁法・量の時期、生態系などに配慮した漁業でとられた水産製品。



■ レインフォレスト・アライアンス認証

環境保護、労働者や家族の生活向上など、持続可能な農業のための包括的な基準を満たした農園に与えられる認証です。



平和な社会の 実現を目指して



平和な国際社会に向けて

生協は、商品を通じた国際貢献や開発途上国の子どもたちを支援するユニセフの活動を支援しています。また、原爆や戦争の悲惨さに目を向け、平和の大切さについて考える活動も続けています。

● メンバー(組合員)による国際貢献

■ コープ商品を通じた貢献

CO・OP コアノンスマイルスクールプロジェクト

「コアノンロール」や「ワンタッチ芯までロール」をお買い上げいただくごとに、アンゴラ共和国の「子どもにやさしい学校づくり」に1円が寄付されます。



CO・OP×レッドカップキャンペーン

キャンペーン期間内に対象のコープ商品を1点お買い上げいただくごとに、1円が国連WFP(世界食糧計画)に寄付されます。寄せられたお金は、毎年指定された開発途上国の学校給食を子どもたちに届けるために使われます。



■ ユニセフ 募金活動

店舗での募金箱やレジ募金、共同購入注文書からの募金、またこ〜ぶ(コープ)委員会や街頭募金活動「ハンド・イン・ハンド」などを通じて、メンバー(組合員)とともにユニセフを支援しています。

2019年度 ユニセフ募金額

一般募金(みやぎ・ふくしま)	5,707,451円
紙バック回収による募金	2,833,402円
ペットボトルキャップ回収による募金	66,836円
合計	8,607,689円



● 平和について考える活動

■ピースアクションへのメンバー（組合員）派遣

毎年、広島で原爆の悲惨さについて学ぶ日本生協連主催の「ピースアクションinヒロシマ」(8月)と、太平洋戦争での沖縄戦や現在の沖縄における諸問題について考える「ピースアクションinオキナワ～沖縄戦跡・基地めぐり～」(3月)に、メンバー(組合員)や子どもたちを派遣しています。派遣された皆さんは、学んだことや感じたことを報告会で地域の皆さんに伝えています。

In ヒロシマ



In オキナワ



■ヒロシマ・ナガサキの被爆者が訴える
核兵器廃絶国際署名

地域ごとのメンバー（組合員）が活動の中で署名活動に取り組み、
2019年度は8,889筆集まりました。

宮城エリア

累計署名数	2017年度	22,987筆
	2018年度	30,889筆
	2019年度	37,190筆

福島エリア

累計署名数	2017年度	2,255筆
	2018年度	5,018筆
	2019年度	7,616筆

[illegible]



ガバナンスと概況



経営体制と意思決定

● 最高議決機関 総代会



みやぎ生協・コープふくしまでは、メンバー（組合員）の中から選ばれた「総代」による「総代会」で毎年の方針・事業計画などが決定されます。総代は、事業地域を店舗や学校職域などで分けた選挙区から選挙で選ばれます。

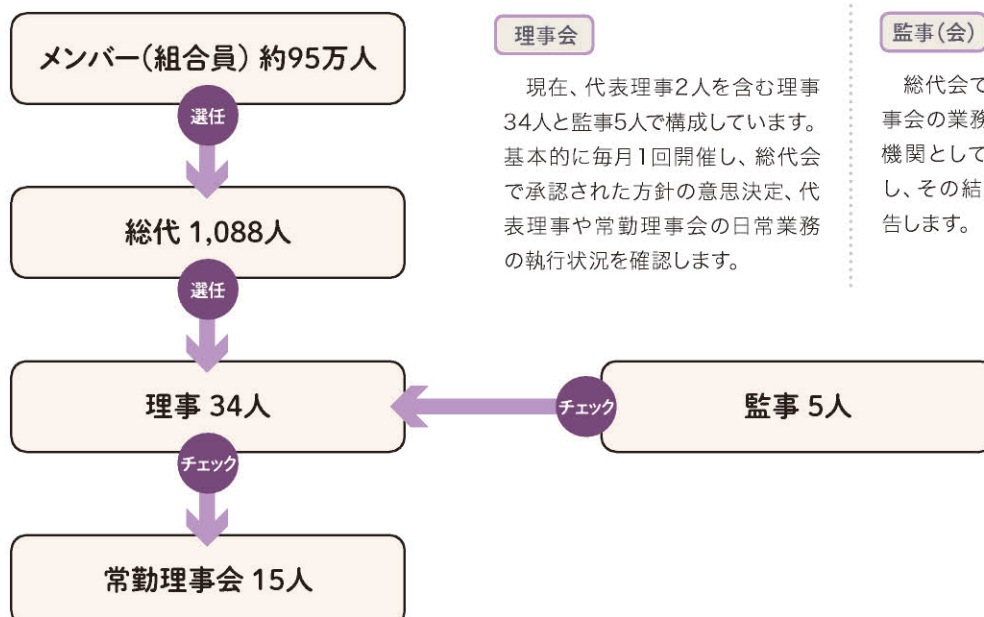
選挙区別 総代定数

	選挙区数	メンバー（組合員）数	総代定数
宮城県	62ブロック	685,298人	835人
宮城県学校部職域	8ブロック	9,500人	12人
福島県	12ブロック	194,897人	241人
合 計	82ブロック	889,695人※	1,088人

※選出基準組合員は、2019年12月20日現在の組合員数から住所不明及び未登録組合員数を除いた数です。

● 業務執行体制

日常的には各部長が、総代会の決定に基づき業務を執行します。また、監事が理事会・常勤理事会の業務執行を監査しています。



理事会

現在、代表理事2人を含む理事34人と監事5人で構成しています。基本的に毎月1回開催し、総代会で承認された方針の意思決定、代表理事や常勤理事会の日常業務の執行状況を確認します。

監事(会)

総代会で選出された監事が理事会の業務執行状況を独立した機関として「監事監査」を実施し、その結果を毎年総代会に報告します。

2019年 3生協が組織合同 (みやぎ生協・コープふくしま・福島県南生協)

● 組織合同の概要

2019年度より、みやぎ生協、コープふくしま、福島県南生協の3生協が組織合同しました。

組織合同による目的は次の4つです。

- ① 事業革新とコスト構造改革
- ② スケールを生かした事業効率化
- ③ 福島地区での事業・組織率拡大
- ④ 人材の確保

「地域のメンバー（組合員）のくらしの向上に貢献し続ける」という使命実現のため、組織合同という形で連携を強めました。



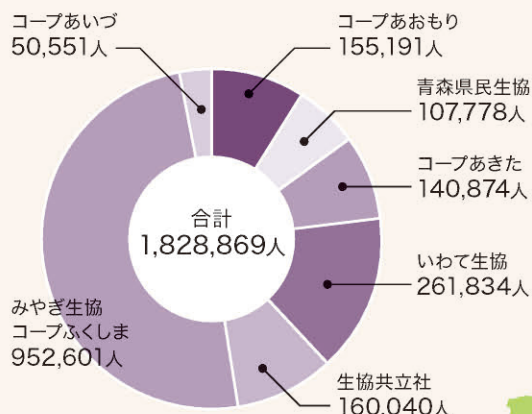
コープ東北サンネット事業連合

1995年にいわて生協、生協共立社、みやぎ生協が設立した事業連合で、商品仕入れを共同で行うことにより、それぞれの地域で事業経営力の強化を図ることを主な目的としています。現在は、東北6県7生協が加盟し、店舗事業、共同購入事業、食品の安全安心、物流、システムなどの分野で統一・共同が進んでいます。

■ コープ東北のデータ

- 代表
代表理事 理事長 倉田秀昭
- 本部所在地
宮城県仙台市泉区八乙女4-2-2
- 設立
1995年5月12日
- 会員数
東北6県7生協
- 供給高（会員生協への供給）
1,158億59百万円
- 会員生協の供給高合計
2,424億34百万円

● 会員生協の組合員数（2020年3月20日時点）



● 内部統制

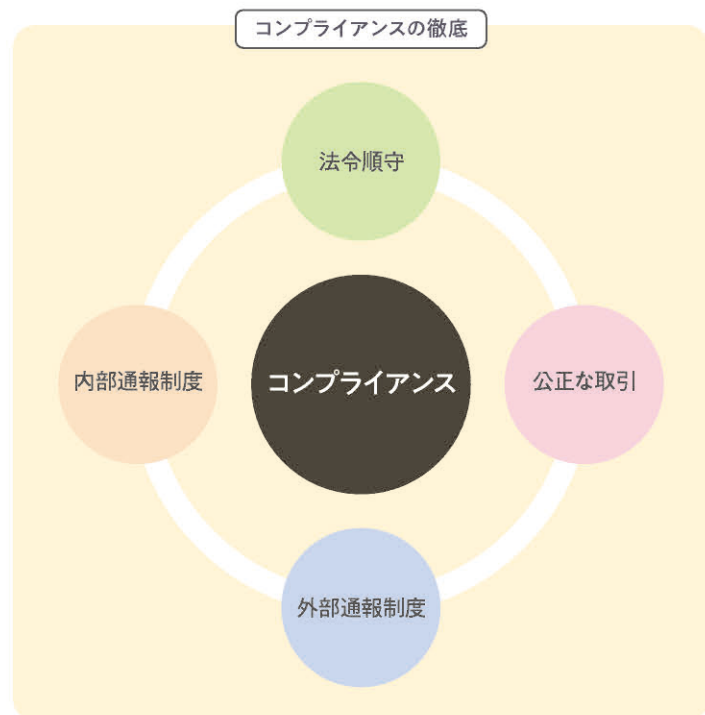
みやぎ生協・コープふくしまでは、ステークホルダーとの協同・連帯を大切にしながら、業務の効率性、提供する商品やサービスの質の向上に努めています。

■ 内部統制システム整備 基本方針

みやぎ生協・コープふくしまは、内部統制システム整備に関わる基本方針を定め、7つの体制の整備を進めています。これにより、内部統制の4つの目的である、「事業活動に関わるコンプライアンスの徹底」「職務の有効性と効率性」「財務報告の信頼性の確保」「資産の保全」の達成をめざして取り組んでいます。

7つの内部統制体制

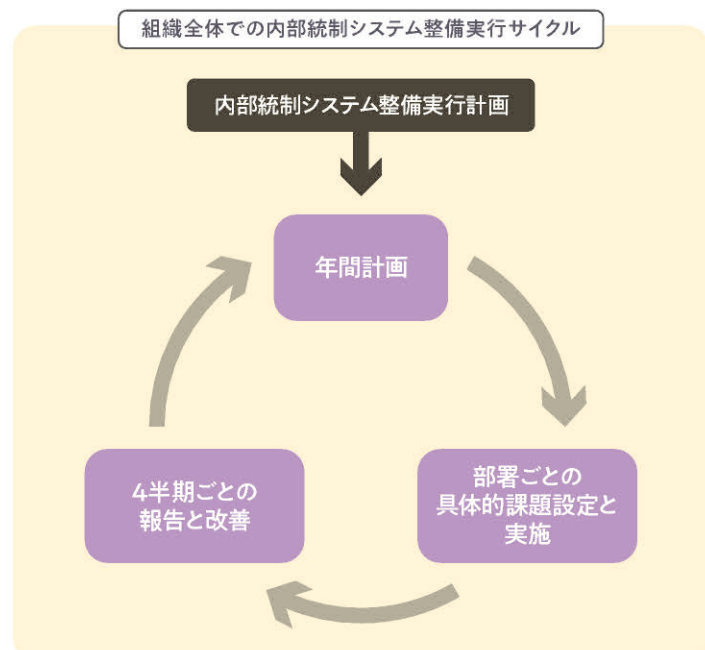
- ① コンプライアンス体制
- ② 情報管理体制
- ③ リスク管理体制
- ④ 効率性確保体制
- ⑤ 子会社などの管理体制
- ⑥ 監事監査確保体制
- ⑦ 監事への報告体制



日常的な実行計画

みやぎ生協・コープふくしまでは、上記基本方針にもとづき、毎年「内部統制システム整備実行計画」を策定しています。年間の共通重点課題を設定するとともに、各部に内在するリスクを評価し、年間を通して継続してリスク管理に取り組んでおり、四半期に一度、課題の進捗状況を確認しています。

また日常的に各部でモニタリングを行い、リスク管理が適切に実行されているか検証するとともに、独立した立場から内部監査室による内部監査を実施しています。



● みやぎ生協・コープふくしまの概況

(数字は2020年3月20日時点)

名 称 みやぎ生活協同組合 **設 立** 1982年3月21日

本部所在地 〒981-3194 宮城県仙台市泉区八乙女4-2-2

メンバー(組合員)数 952,601人

供給高

供給高	1,271億1,500万円
●うち店舗事業	820億3,300万円
●うち共同購入事業	387億3,900万円
●うちエネルギー事業	40億6,500万円
●うちサービス事業	21億4,000万円
●うち生産部事業	5,000万円
●うち文化鑑賞会	8,600万円

(100万円未満は切り捨て)

店舗・共同購入事業所数

		みやぎ	ふくしま
店 舗	●うち直営SM型	49	12
	●うちA&COOP (農協と共同運営)	2	0
	●うちコンビニ型	2	0
共同購入センター		11	6

職員数

※関係団体への出向者含む

レギュラー職員	1,335
エリア職員	289
嘱託職員	442
パートナー職員	4,373
アルバイト職員	1,756
計	8,195

経営概況

ホームページに
掲載しています。



子会社・関係団体一覧

法人名	主な事業内容
(株) 宮城県学校用品協会	学用品販売
(株) コープトラベル東北	旅行事業
(株) コープ総合サービス	宅配水・レストラン・コインランドリー
(株) コープエステート	不動産賃貸
(株) スクラムファイブ	ベーカリー
(株) コープストア	小売業
(株) 東北協同事業開発	商品開発・卸売
(株) コープコンビニエンス	小売業
社会福祉法人 こーぷ福祉会	高齢者福祉・保育園事業

みやぎ生協・コープふくしま
サステナビリティレポート2020



発行日 2020年5月11日

発行 みやぎ生活協同組合 〒981-3194 宮城県仙台市泉区八乙女 4-2-2

お問合せ先

- 機関運営部広報課 TEL.022-771-1590 FAX.022-773-1821
- 環境活動に関する詳細は環境管理室 TEL.022-771-2461

HPアドレス

みやぎ生活協同組合 <https://www.miyagi.coop/>

本報告書はホームページにて掲載、ダウンロードできます。



このパンフレットは水なし印刷で印刷し、カーボンオフセットしています。
CO₂排出量は、1部あたり350gでJWPAとCFCを通じてカーボンオフセットしました。

